

1. 文献調査の評価について

- 現在NUMOで実施している文献調査のとりまとめに当たっては、その内容について、丁寧に評価することが重要。具体的には、法令や調査計画に沿ったものとなっているか、技術的・専門的観点などからの考察・分析が十分か等を確認する必要があると考える。その際、関連分野に精通している有識者の意見を聴くことが有効と考えるが、文献調査の評価をどのように進めていくべきか。

2. 北海道2町村の「対話の場」や派生した取組、周辺市町村等での対話活動について

- 最終処分事業は長期的な事業。このため、文献調査と並行して、当該事業のリスクと安全対策の考え方や、地域に及ぼし得る影響（プラス面・マイナス面）などについて、様々な活動を通じて、丁寧な情報提供・議論を深めていくことが重要。
- 「対話の場」は、当該自治体における最終処分事業や文献調査に関する議論を深めるため、NUMOによる説明やメンバーによる意見交換等を継続して実施してきている。今後、どのように進めていくべきか。
- 「対話の場」だけでなく、施設視察や専門家を招いたシンポジウムなどを実施・準備しているところだが、こうした活動をどのように充実させていくべきか。
- 道・周辺市町村などとの対話活動へどのように広げていくべきか。

3. 文献調査の実施地域の拡大に向けた取組について

- 最終処分の実現に向けては、全国のできるだけ多くの地域において文献調査を受け入れていただくことが重要。このための全国での対話活動や広報活動の更なる展開をどのように進めていくべきか。
- 最終処分事業に関する理解を広げていくため、どのような取組が効果的か（国・NUMOからの働きかけや学習・検討の支援のあり方、関心の高い主体同士の賛否を超えた議論の輪の拡大等）。

4. 技術的信頼性の更なる向上、諸外国との知見・ノウハウの共有などについて

- 幌延国際共同研究や包括的技術報告書の国際レビューなど、国内外関係機関との連携強化に取り組んでいるところだが、技術的信頼性の更なる向上の観点から、どのような連携があるべきか。